

第6会場 昭和町立常永小学校

〒409-3851

山梨県中巨摩郡昭和町河西15

TEL 055-268-1111

FAX 055-268-1112

E-mail : jyoei@jyoei.showacho.ed.jp



ホームページアドレス : <http://www.jyoei.showacho.ed.jp/>

学校長 守木 貴

学級数 22 学級

児童数 591 名

本校は、2002（平成14）年4月、昭和町内3校目の小学校として開校しました。開校当初300余名だった児童数は、地域の区画整備事業に伴う世帯の増加とともに増え続け、現在では600名近くにまでなりました。また、広く田園風景が見られたこの地域は、大型ショッピングモールの出店により大きく様変わりし、県内屈指の商業地域へと様変わりしてきました。

本校はこれまで、平成16年度に基礎学力向上やまなしプラン推進実践校及び中巨摩学校給食研究協議会推進校として公開研究発表を行ったのを始め、平成18、19年度には国立政策教育研究所より生活科における学力把握に関する研究指定を受け、公開研究発表を行いました。また、平成24年度にはタブレット型PC導入によるICTを活用した教育を開始し、情報化社会への対応と児童が学習の手段としてより身近にコンピュータ活用ができる環境を整えてきました。さらに、平成27年度にはコミュニティ・スクール導入促進事業の指定を受け、地域における学校の在り方を強く意識し、開かれた学校として保護者のみならず、より多くの地域住民に親しまれる学校づくりを目指しました。そして同年度、文部科学省より英語（外国語）教育強化地域拠点事業の指定を受けて、グローバルな時代に対応できる人材の育成も図っていくこととなりました。この事業においては平成29年に昭和町内3小学校及び押原中学校、甲府昭和高等学校の5校が一堂に会し、昭和町外国語教育推進事業外国語公開研究会として、県内外多くの方においでいただく中で、外国語活動・外国語科公開授業および研究会を開催しました。

本校の外国語教育は、前述の外国語教育強化地域拠点事業により大きく前進が図られ、外国語教育を通し、主体的に表現できる児童の育成やグローバル化する社会を生き抜く力の育成をめざして研究を重ねてきました。今年度は「自ら考え、進んで伝え合える児童の育成を目指して～目的・場面・状況を意識した言語活動を通して～」と研究主題を定め、外国語教育のさらなる充実と来年度より全面实施となる新学習指導要領での学習内容がどう進められていくかの見通しを持てるよう取り組んでいます。今年度は全国小学校英語教育実践研究大会山梨大会が開催され、本校も授業公開を行い、広く御指導いただける機会と捉え、これまで以上に研究の成果を上げ、今後に向けた課題を明らかにしたいと考えます。

今回提案する研究内容は、外国語を使う目的・場面・状況の中で必然性のある言語活動のあり方です。誰に向かって話をしようとしているのか、何のためにその時に学習している表現を使うのかを言語活動を通して児童に気付かせていくことができればと思います。将来的に外国語、とりわけ、英語を使う機会が多くなる今の児童にとって、外国語を用いて自分の思いを表現し、コミュニケーションを図れる力をつける第一歩となる活動になればと考えています。

～取組の実際～

本校では、3、4年生が年間35時間、5、6年生は年間70時間の外国語活動を行っています。また、1、2年生については年間10時間、外国語の歌やチャンツにふれあい、数の数え方や色の言い方など外国語を身近に感じる時間が設定されています。

本校の研究については、「自ら考え、進んで伝え合える児童の育成を目指して～目的・場面・状況を意識した言語活動を通して～」の主題のもと4月より研究に取り組んできました。今回提案を行う「全国小学校英語教育実践研究会山梨大会」に向けて外国語教育の充実を図り、外国語教育を通じての学びに向かう力、主体的・対話的で深い学びの育成、誰に対して、どんな場面で、言語活動をどう仕組むかを明確にし、言語使用の必然性を高めるような工夫を行ってきました。

① 日常生活で外国語に触れる。

・本校では放送委員会が中心となって朝の放送の際に、日本語と外国語（英語）を用いて、日付、天気などをアナウンスする。

・給食の時間、ALTが教室をまわり児童とのコミュニケーションを図る。

・学習資料センター（図書館）でのイベントで外国語活動の要素を取り入れる。（ハロウィン、日本語以外の言語での読み聞かせなど）

・職員がこれまで訪れた外国のことを地図上に紹介し、児童とのコミュニケーションを図る手段として、外国やその国のことを知るきっかけとする。

・児童会活動の「あいさつ運動」において外国語でのあいさつを取り入れる。

② 本年度の研究について

本年度は「全国小学校英語教育実践研究会山梨大会」を控え、これまで積み上げてきた現行学習指導要領における外国語教育の研究を再度見直し、新学習指導要領の全面实施や外国語の教科化に向けた架け橋となる年にしたいと考えてきました。そこには外国語教育を通じての「主体的・対話的で深い学び」が盛り込まれ、学びに向かう力を育成していくものとしたいとしてきました。そこから外国語教育で培った力を教科全般への広がり結び付けられれば、さらに大きく児童の「生きる力」の伸長へつながっていくものと思われたいです。この実践研究会において、本校では「目的・場面・状況を意識した言語活動」のトピックのもと研究を進めていきます。このトピックでは、誰に向かって話をしようとしているのかを意識させたり、何のために学習している内容の表現を用いるのか活動の目的を意識させたりしながら、外国語活動を進めていきたいです。

③ 本校のトピック「目的・場面・状況を意識した言語活動」について

児童が外国語を使う際に、誰に対して、どんな場面で、言語活動をどう仕組むかを明確にし、言語使用の必然性を高めるような工夫を図っていききたいです。そのために、そのときに学習している外国語表現を使って伝えてみたいという場面や目的を作り出し、その中で自然と表現していく状況にしていきたいです。今回提案する授業において、3学年では「3ヒントクイズ」を用いて、友だちとやり取りを通して、あるものが何であるかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことをねらいとして、また、5学年では“be good at”による「得意なこと」の表現を用いて、第三者について伝えたいことを整理した上で、紹介することをねらいとして授業づくりを進めていきます。さらに、外国語活動や表現が児童にとって身近な存在であったり、身近に感じられるものであったりすることが、意欲的に表現する活動へとつながると考え、学校、家庭、地域も意識しながら投げかけや課題提示ができればと考えます。一つの単元、一時間の授業の中で学習する内容に、自分自身の生活に結びついてことが盛り込まれていれば、「私だったら、こんなふうに聞いてみたい」とか、「今のクラスならば、こんな質問をするとみんなの考えがまとめられそうだ」「私たちの地域の特徴を世界の人に知ってもらうにはここを紹介しよう」など、本校の目指すやり取りができると考えます。